

平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果（概要）について

浜田市教育委員会

平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果の概要についてお知らせします。

今回の調査ではかれるのは学力の一部であり、このことを踏まえて、単に数値のみで序列化された過度の競争につながるようなことがないよう留意をお願いします。

1 調査の概要

(1) 調査実施日 平成 28 年 4 月 19 日（火）

(2) 調査の対象 国・公・私立学校小学校 6 年生（特別支援学校含む） 全児童
国・公・私立学校中学校 3 年生（特別支援学校含む） 全生徒

* 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級在籍者のうち、下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒や特別支援学校の教科の内容の指導を受けている知的障がい者である児童生徒は、調査対象としない。

(3) 浜田市での調査対象児童・生徒数 ・小学校 442 名 ・中学校 448 名

(4) 調査の内容

- ① 教科に関する調査 ・国語A（知識） ・国語B（活用）
・算数・数学A（知識） ・算数・数学B（活用）
- ② 質問紙調査 ・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査

2 各教科の平均正答率

(1) 小 学 校

	平均正答率（％）					
	浜田市	全国	島根県	差(市－国) <昨年>	差(市－県) <昨年>	差(県－国) <昨年>
国語A	72.2	72.9	74.5	-0.7 <-3.3>	-2.3 <-2.6>	1.6 <-0.7>
国語B	52.9	57.8	57.3	-4.9 <-4.4>	-4.4 <-2.8>	-0.5 <-1.6>
算数A	73.7	77.6	77	-3.9 <-5.0>	-3.3 <-2.2>	-0.6 <-2.8>
算数B	43.1	47.2	45.9	-4.1 <-6.6>	-2.8 <-3.8>	-1.3 <-2.8>

(2) 中 学 校

	平均正答率（％）					
	浜田市	全国	島根県	差(市－国) <昨年>	差(市－県) <昨年>	差(県－国) <昨年>
国語A	74.6	75.6	76.3	-1.0 <-3.7>	-1.7 <-3.6>	0.7 <-0.1>
国語B	64.8	66.5	67.9	-1.7 <-3.2>	-3.1 <-3.0>	1.4 <-0.2>
数学A	54.4	62.2	59.5	-7.8 <-8.5>	-5.1 <-6.8>	-2.7 <-1.7>
数学B	37.5	44.1	41.7	-6.6 <-7.4>	-4.2 <-5.4>	-2.4 <-2.0>

3 島根県の結果

- 小学校国語A、中学校国語Bにおいては、全国平均を上回っている。
- 小学校国語B・算数Aにおいては、全国平均並みである。
- △小学校算数B、中学校数学A・数学Bにおいては、全国平均を下回っている。
- 各教科の正答数分布状況については、昨年度は正答数の多い層の割合が全国に比べて少なかったが、今年度は全国と同様の傾向。
- 小学校国語Aでは、「話すこと・聞くこと」「言語事項」の領域で全国平均を上回った。
- △小学校算数Aでは、「図形」「数量関係」の領域で全国平均を下回り、算数Bでは、「数と計算」「図形」「数量関係」の領域で全国平均を下回った。
- 中学校国語Aでは、「書くこと」の領域で全国平均を上回り、国語Bでは、「読むこと」の領域で全国平均を上回った。
- △中学校数学Aでは、全ての領域で全国平均を下回り、特に「関数」「資料の活用」の2領域で大きく下回った。数学Bでは、「数と式」「図形」「関数」の領域で全国平均を下回り、特に「図形」「関数」の2領域で大きく下回った。

4 浜田市の結果

(1) 教科に関する結果の概要について

- 小学校6年、中学校3年ともに、全教科において平均正答率が全国平均を下回っているものの、小学校の国語A、算数A、Bについては、国の平均正答率との差が縮まってきている。中学校については、国語A、B、数学A、B全てにおいて、国との差は縮まっている。
- △小学校国語Bについては、昨年度よりも0.5ポイント差が広がった。
- △差は縮まってきているものの、算数、数学（特に数学の全国との差の開き：県の課題でもあるが・・・）については継続して取り組んでいく必要がある。

(小学校)

国語A、算数Aの、知識・理解・技能など基礎的な力を必要とする問題の正答率が上がってきている。国語については、図や表などから読み取り、そこから分かったことを選択したり、まとめたりする設問の正答率が低い。算数Aについては、小数の性質、整数の性質等繰り返して指導をする必要がある。図形の関係を読み取ることについて、実際の作業・活動を通して、実感させることが必要。割合、単位量につながる考え方については、課題がみられた。

(中学校)

国語については、特にAで全国平均の正答率を上回った問題が多く、基礎的な力を付けてきていることがわかる。その中でも特に「奥付」「図鑑」に関わる問題など、図書に関わる問題の正答率が高く、図書館活用教育で取り組んできたことの成果が現れてきていると言える。数学Aについては、記号や、ことばの意味が理解できていないために誤答となっていたり、公式を覚えていないために誤答となっている問題がみられ、基礎的・基本的な知識の確実な習得に課題がみられた。

(2) 質問紙の回答状況から

- 一日1時間以上家庭学習をする割合については、改善がみられるものの、まだ県よりも低く、中学生の割合が小学生よりも低いことが課題である。
- 保護者や地域の人に関わった教育活動についての割合は、県や全国の値を上回っており地域の教育力を生かして学習を進めることができている。

○地域の行事への参加や、地域社会への関心も国の割合を上回っており、地域と一体となった教育については良好である。

○メディアとの接触については、小学校ではゲーム、中学校ではインターネットやメールを2時間以上する割合が、国よりは低いが、県よりも多く依然として課題がみられる。

○小学校では、国語、算数で、「理由を考える、普段の生活の中で活用する」などの値に課題が見られる。「学校質問紙の実生活における事象との関連を図ったとする」割合についても、国と比較して低く、指導の改善が必要である。

○「数学の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の割合は全国よりも低く、数学の問題に向かう姿勢に課題がみられる。

○「自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」については、「あてはまる」は、国と比較すると、あまり差はないが、最も肯定的に捉えている「あてはまる」と最も否定的な「あてはまらない」の差が大きく、主体的に取り組むことができている児童・生徒と、そうでない児童・生徒との較差が生じていることが伺える。

5 今後の対応

○ 授業改善、家庭学習の充実、メディア接触時間の適正化の3つに引き続き取り組む

(1) 授業改善

(児童・生徒同士が主体的に関わり合い、深く学ぶことができる授業への転換と基礎的・基本的事項の定着を図る)

- ・新しい学びプロジェクト(協同学習)研究発表会への参加
- ・推進員による、授業公開
- ・学校図書館活用教育の継続、授業の推進
- ・算数授業改善指定校への支援、公開授業への参加
- ・指導主事訪問による継続的指導
- ・配信プリントの活用(漢字・ローマ字・計算・公式・言語事項等の定着)

(2) 家庭学習の充実

(家庭学習時間の確保と、質の向上を目指す)

- ・家庭学習ノートコンテストの活用
- ・家庭学習時間の確保(小学校1時間、中学校2時間以上を目指す)
- ・家庭学習での教科書の使用の奨励
- ・配信プリントの活用

(3) メディア接触時間の適正化

(小中連携教育の中学校ブロックでの9年間を見通した取組を行い、家庭と連携しながらメディア接触時間の適正化を図る)

- ・適正なネットとの関わり
- ・小中連携教育での、ブロック内での共通した取組
- ・家庭と連携した生活習慣の見直し